

令和8年3月4日(水)
13:15 ~ 14:00

第123回東京都技術会議

東京都技術会議組織名簿

(座長)

東京都技監 (都市整備局長・都市整備局技監 兼務)

谷崎 馨一 (土 木)

(副座長)

住宅政策本部長

山崎 弘人 (建 築)

建設局長

花井 徹夫 (土 木)

下水道局長

藤橋 知一 (土 木)

(委員)

政策企画局技監 (スポーツ推進本部技監 兼務)

朝山 勉 (土 木)

デジタルサービス局次長

佐久間 巧成 (土 木)

都市整備局技監

栗谷川 哲雄 (建 築)

都市整備局理事 (航空政策・交通基盤整備・交通政策担当)

三宮 隆 (土 木)

保健医療局技監 (福祉局技監 兼務・教育庁技監併任)

成田 友代 (医 師)

建設局道路監 (デジタルサービス局理事 (データハイウェイ推進担当) 兼務)

久野 健一郎 (土 木)

港湾局技監

村田 拓也 (土 木)

水道局技監

鈴木 理 (土 木)

※ 財務局 建築保全部長

金子 陽子 (建 築)

※ 環境局 環境改善技術担当部長

丹野 紀子 (環境検査)

※ 中央卸売市場 環境改善担当部長

中井 宏 (土 木)

※ 東京消防庁企画調整部長

上原 源隆 (消 防)

※ 交通局 車両電気部長

生越 啓史 (電 気)

※ 交通局 建設工務部長

坂口 淳一 (土 木)

※ (産業労働局所管) 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター
研究開発本部機能化学材料技術部長

清水 研一 (理工技術)

※ : オブザーバー

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

令和7年度「東京都技術会議」の活動について（最終報告）

3 そ の 他

4 閉 会

東京都技術会議について

技術会議の概要

- ✓ 技術職の局長級の委員により構成（座長：東京都技監）
- ✓ 平成4年発足以降、**都政の重要かつ緊急な課題**に対し、**技術的側面から意見交換**を実施
- ✓ これまで**技術水準の維持向上、技術職員の確保・育成・活用等のあり方**や**社会情勢を踏まえた取組**などを議論

技術会議の役割を明確にし、会議での議論や成果を都の施策に反映するため、3つのMissionを整理

Mission 1

各局の**施策を下支え**する取組



←技術職員確保に向けた活動

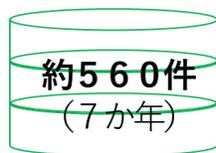
海外交流データの蓄積・共有

海外渡航データ

海外受入データ

海外との覚書
協定データ

登録



データベース

検索

技術職員

Mission 2

技術力の維持向上を図る取組

「都庁技術職」

厳しい状況

激化する人材獲得競争

技術職員の実態把握に努め
技術力向上に資する取組を検討

Mission 3

新技術を活用・実装する取組

各局の**先進的な取組や試行段階の取組等を水平展開**



（取組例）遠隔臨場による施工管理

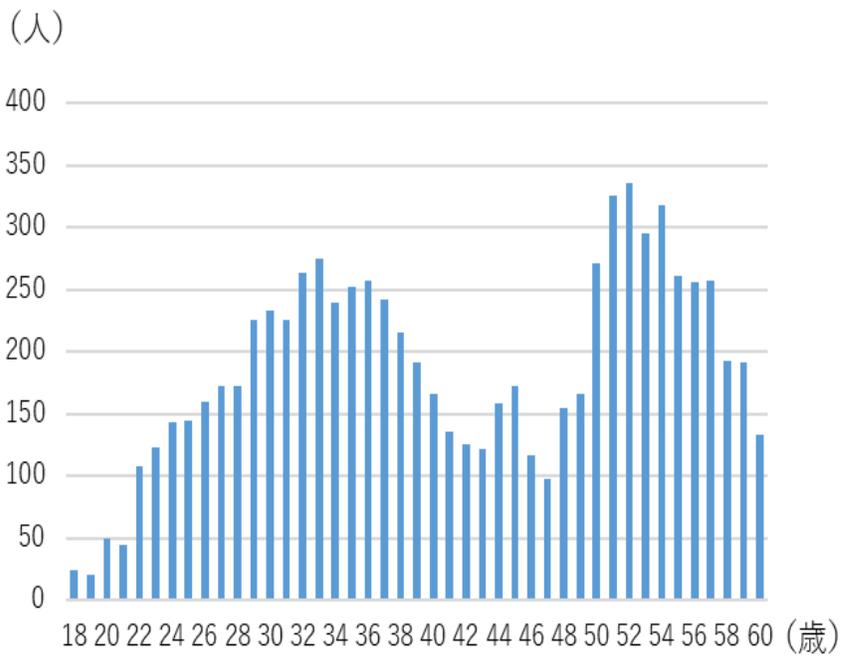
令和7年度 東京都技術会議の取組

喫緊の社会的な課題に対応し、各局の技術的な取組の下支えを着実にを行うため、
技術人材の確保と**技術力の向上**に向けた取組を実施

(取組の背景)

- 建設系技術者は**減少傾向**、将来にわたる**執行力の低下**が懸念
- 今後、**強靱で持続可能な東京の実現**に向け、着実な事業推進やインフラ管理が必要

都技術職員の年齢構成 (令和7年4月1日時点)



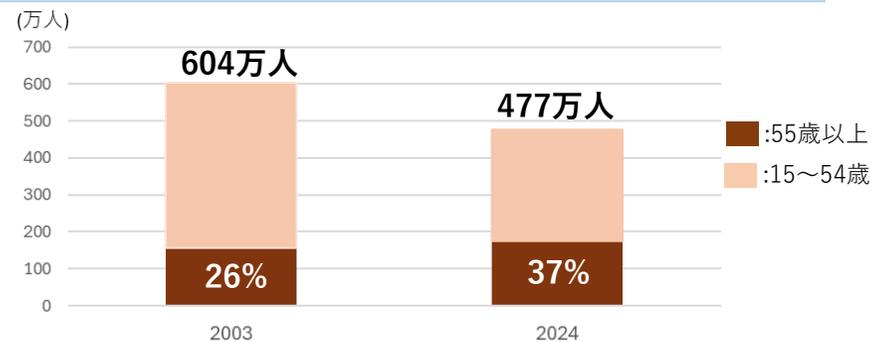
出展：「都職員の構成」(東京都人事委員会)

区市町村の技術職員数 (令和6年4月1日時点)

都	区	市町村
約9,000名	約200名程度 (約100~800名)	約50名程度 (数名~約300名)
約21%	約9%(平均)	約6%(平均)

(下段：総職員に対する割合)
 (総務省_令和6年地方公共団体定員管理調査を基に政策企画局で独自に編集)

建設業界の就業者数の推移



出典：日本建設業連合会「年齢階層別建設業就業者数の推移」を加工

インフラの整備と維持管理



地震への備え



風水害への備え



計画的かつ高度な維持管理

技術人材の確保

都庁における技術職員確保の取組を一層強化することに加え、
政策連携団体や区市町村等と連携した取組を新たに推進

都庁技術職員確保の取組

技術会議における魅力の発信

☑ 学生向け

▶ **大学訪問** (平成19年度より継続実施)

- ・ 都庁の仕事の魅力を発信
- ・ 試験制度、職員支援制度の説明

⇒ 組織的な大学訪問により取組強化

☑ 学生、都庁合格者向け

▶ **技術・福祉系現場見学会の開催**

- ・ 合格者の内定辞退抑止
- ・ 学生の採用試験受験を促す

▶ **本庁現場見学会**

- ・ 入都に対する不安を払拭



東京国際クルーズターミナル【港湾局】



本庁現場見学会実施状況

Mission1

政策連携団体との連携

Mission2

政策連携団体の人材確保を後押し

区市町村との連携

Mission2

区市町村へのアンケートを実施
課題や実態を調査し技術支援に向けた取組を検討

工科高校や業界団体との連携

Mission2

若年層の関心を高める取組を検討



都庁技術職員確保の取組

技術会議で継続し取組んできた「大学訪問」をアップデートし
都庁技術職の魅力効果をPR

従来の大学訪問

個々の職員と出身大学との繋がりを活用
⇒ 1職種のみ訪問の場合、多様な学科の学生に、
職種特有の情報を説明できない場合もあり

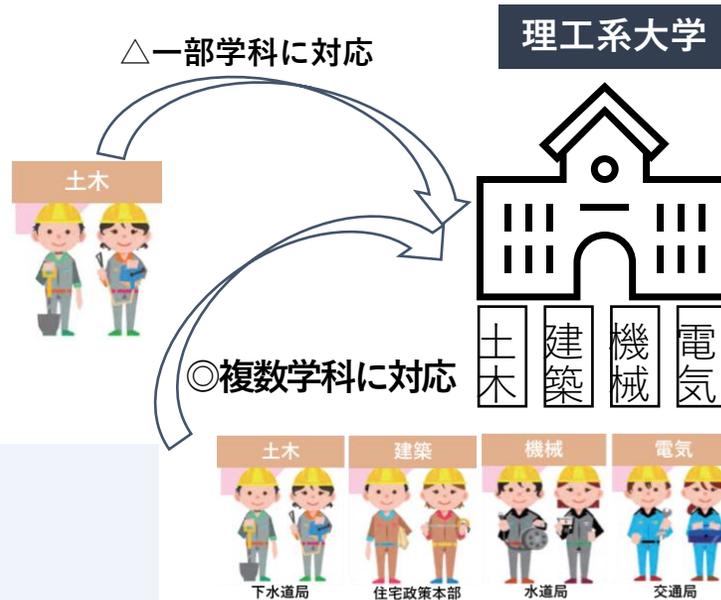
大学訪問の強化

大学OB職員の大学とのつながりをベースに、
各局連携した組織的な訪問体制を構築

✓ 大学訪問数



✓ 設備系学科への説明数



複数職種による大学訪問

政策連携団体との連携

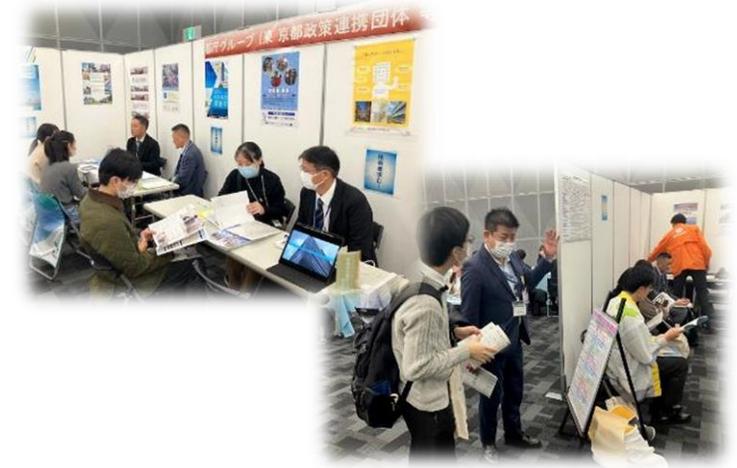
都庁を支える都庁グループの
人材確保を後押し

都庁の仕事の魅力・やりがいを紹介する
「都庁セミナー」へ政策連携団体が初参加

日時：2025.12.6 (土)

場所：東京ドームシティ

参加：各局(24局) + 政策連携団体(9団体)



< 政策連携団体ブースの状況 >

今後の展開

✓ 都庁技術職員の確保に向け大学訪問等の取組をさらに強化（効果的なPR方法の検討・訪問対象の拡大等）

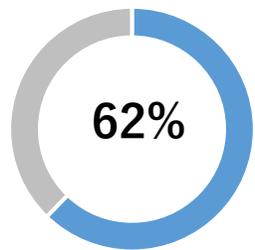
区市町村との連携

東京のインフラ・まちづくりの取組を進める上で
連携が欠かせない**区市町村の取組を支援**

技術力維持向上に関する取組についてアンケート調査を実施

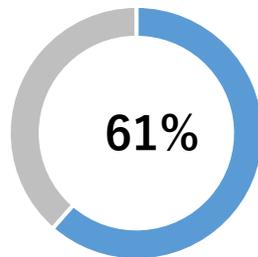
調査対象：23区・多摩地域の市町村の技術職場 回答数：53自治体(回答率100%)

①技術力維持向上の取組



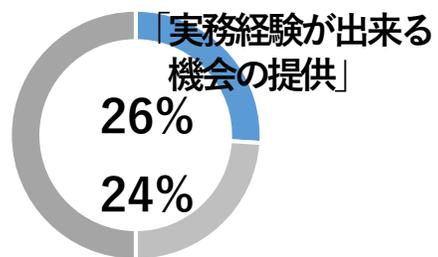
「独自に取組んでいる」

②技術力の維持向上を進める上での課題



「技術職員の確保」

③区市町村が東京都に期待する取組



「実務経験が出来る
機会の提供」

「受入れ可能な
研修の拡大」

東京都都市づくり公社における人材バンクをR8に設置予定

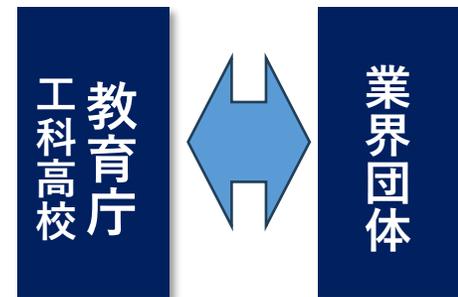
計画立案から実施まで、まちづくりを支える人材の確保に向けた支援制度を構築

工科高校や業界団体との連携

建設業の担い手確保に
つながる取組を支援

若年層の関心を高める取組

業界団体、教育庁、技術会議等で
連携体制を構築



連携・下支え

東京都技術会議

今後の展開

- ✓まちづくり人材の確保に向けた体制を整備し、区市町村業務を支援
- ✓技術会議のノウハウを活用し、関係者との連携を強化し、技術面の施策を後押し

技術力の向上

これまで実施してきた「聴く」取組により得られた結果から
技術力向上に向けた**実効性のある取組を展開**

課長代理級技術職員アンケート

調査概要：技術職員の人材育成、定着に向けた方策検討のため実施

対象：課長代理級技術職員(45歳以下) 回答：576名(回答率62%) (R7年度実施)

職場環境の満足度

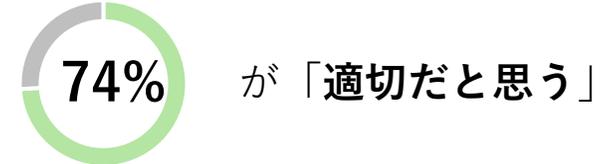
- ライフワークバランス



- 職場のコミュニケーション



- 上司や同僚のサポート



キャリア意識

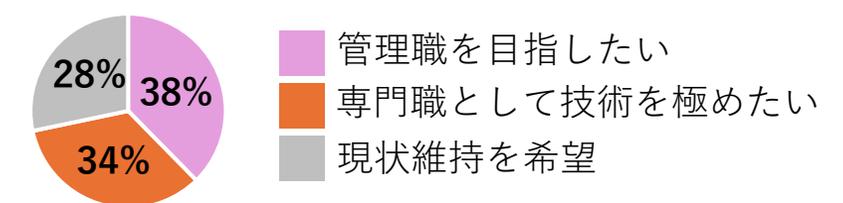
- 仕事にやりがい



- 昇進意欲



- キャリアビジョン

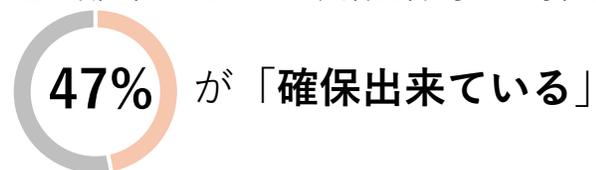


技術力維持向上

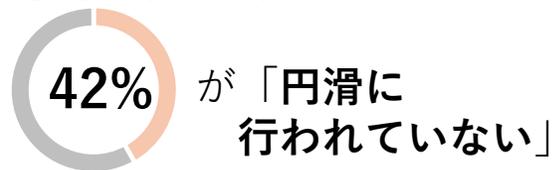
- 技術力の維持



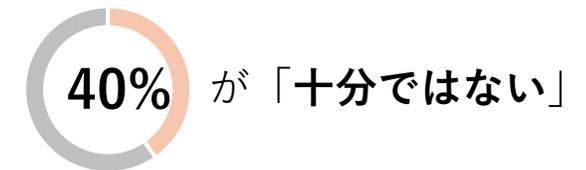
- 部下へOJTや技術指導の時間



- 技術の継承



- DXや新技術への職場の取組



技術力の向上

若手技術職員アンケート

(R6年度実施)

調査概要：人材確保、若手技術職員等の定着に向けた方策検討のため実施

(対象) 19歳～35歳の技術職員
(回答) 1,635名 (回答率42%)

ライフワークバランス



入都の動機



入都後に感じたギャップ



転職



「技術会議×WA」アンケート

参加者意識調査
(R6年度実施)

先進的な取組を共有してほしい

資格取得支援を充実してほしい

技術者同士が繋がれる場があると嬉しい

キャリア形成の色々なパターンを知りたい

仕事内容に高い関心・やりがい



Mission1

東京都の技術の発信

多様な職員の活躍機会創出



Mission2

女性活躍の取組

デジタルリテラシー向上



Mission3

デジタル技術体験会

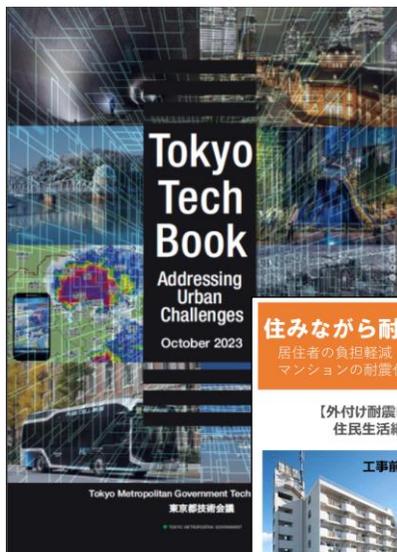
上記のほか、若手技術職員アンケート等を踏まえ、R8年度から資格取得支援に伴う、受講料の上限引上げ・登録料の新設を予定

概要

- ・ 技術面における都の優れた取組を様々な紹介ツール (Tokyo Tech Book、PRペーパー) を活用し、国内外への技術力の発信を実施
- ・ 「**技術力の発信**」と「**AI**」を掛け合わせることで、更なる技術力の発信にも挑戦

実施内容

これまでのツール



←Tokyo Tech Book

↓ PRペーパー



「技術力の発信」×「AI」

AIを活用して作成した新たなツール

現実では肉眼による目視や撮影が困難な描写を、AIを活用することでリアルに映像化した動画を制作



↑ 既設下水道管を内面から再構築する様子

地下調節池が河川水↓で満たされる様子

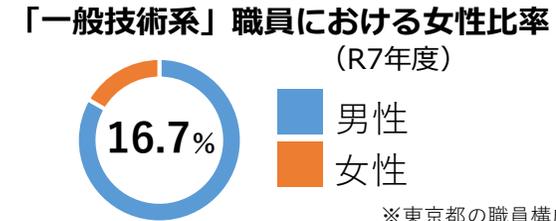
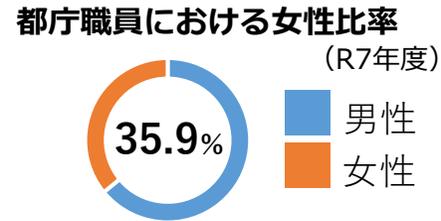


今後の展開

✓ 各局の保有する様々な優れた技術について、より効果的な発信・共有のあり方を検討

職員の男女別構成の現状

- 都庁職員における女性比率に比べて、一般技術系職員の女性比率が低い状況



※東京都の職員構成（令和7年、東京都人事委員）より編集

WA×技術会議コラボイベント

- WAと連携し、キャリアアップ支援の充実や職員間の横のつながりの形成の取組を実施

第1回 キャリアアップに向けて一歩踏み出すあなたを応援します

令和7年2月4日（火）13：00～15：00（オンライン併用開催）

- 山田菊子氏（土木学会）、鷲頭直子氏（(株)フジタ）による講演
- パネル・ディスカッション



第2回 未来を共に描き、技術でつながる新しいWAをつくろう

令和8年2月4日（水）14：00～16：30（オンライン併用開催）

- 伊藤敦子氏（東日本旅客鉄道(株)代表取締役副社長）による講演
- グループトーク



※各回、松本副知事と谷崎都技監による「WA×技術会議」共同宣言を実施

今後の展開

- 女性技術職員の定着や確保を一層推進するため、様々な取組の展開を実施

職員のキャリア形成

『キャリア・メンター×技術会議』
= 女性技術職員向けの **キャリア形成支援** を充実

職員の育成

『都庁若手技術職員×技術会議』
= 女性技術職員間の **横の繋がり** を形成

機運醸成

『業界団体や学生×技術会議』
= 業界・都庁への **女性技術者の参入** を促進

出展数：都庁各局**19ブース**／参加人数：**565名**（区市43名参加）

区分	No.	ブース名	所管局
VR	①	閘門の仕組みを学ぶXRコンテンツ	建設局
	②	VRを活用した体験型研修	水道局
	③	高精細VRを活用した新宿グランドターミナルの再編検討	都市整備局
	④	防災都市づくりVR（仮称）	都市整備局
AI	⑤	AIによる浄水場での薬品注入支援	水道局
	⑥	AI設計書チェック支援システム	下水道局
	⑦	AI巡視点検ロボット	下水道局
	⑧	設計図書AI照査	港湾局
	⑨	都市整備局版ベース・レジストリにおけるAI活用(仮称)	都市整備局
DX	⑩	住民説明会における完成イメージ動画の活用	建設局
	⑪	3Dデータを活用した道路の維持管理の高度化	建設局
	⑫	東京みなとDXシステム・離島港湾情報プラットフォーム	港湾局
	⑬	水道スマートメータ	水道局
	⑭	デジタルツイン	デジタルサービス局
デスマイスト	⑮	タブレットによる地下鉄構造物維持管理	交通局
	⑯	デジタル端末による駅消火設備維持管理	交通局
	⑰	スマートデバイスを活用した点検支援	水道局
	⑱	スマートフォンアプリを用いた都営住宅の応急危険度判定	住宅政策本部
その他	⑲	ドローン展示	各局

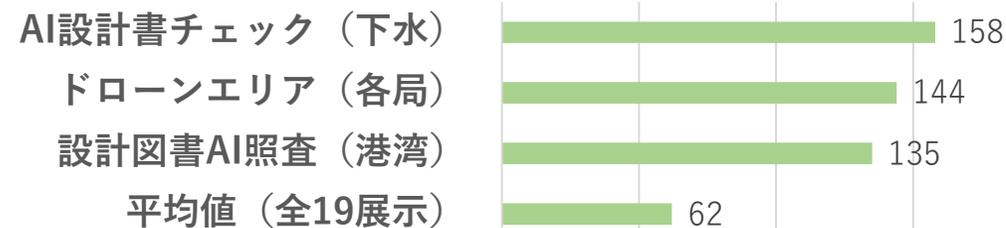


（開催状況）

（ブース展示状況）



職員の関心が高かったブース



関心高い

今後の展開

✓ デジタルリテラシーの確実な向上を図るため、継続的な体験機会の創出を検討

令和8年度における技術会議の取組について

【今年度の成果と課題】

Mission1（各局の施策を下支えする取組）

- ▶ 複数職種による「**組織的な大学訪問**」を実施
⇒ 都庁技術職の魅力効果をPR
- ▶ **東京の技術力の発信**
⇒ 海外渡航・国際交流の機会に、東京TECH BOOKやPRペーパー等を活用し技術力を発信

Mission2（技術力の維持向上を図る取組）

- ▶ **課長代理級技術職員へのアンケート**を実施
⇒ 約7割が仕事にやりがいを感じる
⇒ 約4割が管理職を目指したい
- ▶ **区市町村の実態把握に向けたアンケート**を実施
⇒ 約6割が**技術職員の確保に課題**を感じている

Mission3（新技術を活用・実装する取組）

- ▶ DX・AIの活用促進・技術職員のデジタルリテラシー向上
⇒ **デジタル技術体験会を初開催**し、リテラシー向上に寄与

【令和8年度の取組の方向性】

- 東京の社会経済、防災・減災、インフラ管理を支える**技術人材の確保は**、今後とも社会的課題であり続けるため、その**取組の強化**が必要
- 女性活躍の輪（WA）**との連携強化による、**女性技術職員の確保や定着の取組**が必要
- 都立工科高校と業界団体**との連携を強化し、若年層の関心を高める取組等が必要
- 今後の人口推計を見据えると、**新技術の実装を図るなど技術力の強化**が一層不可欠
- デジタル技術を浸透**させる機会を庁内外に創出
- 東京のレジリエンス等の**技術発信**に向け、**国際交流の取組を強化**

国際発信力強化部会

令和7年度国際発信力強化部会の実施内容

取組内容

第121回技術会議資料より抜粋

○海外交流実績の整理・分析・共有

- ・海外交流実績データベースのデータ追加、利用しやすい方式へのバージョンアップ
- ・効果的なPR戦略の検討
- ・海外交流事例集の作成、整理
- ・国際発信ツール（PRペーパー等）の更新

○国際会議等における先進的な取組の発信

- ・国際会議等でのプレゼン、ブース出展
- ・SNSによる技術力・取組の発信
- ・海外技術者との現場視察、意見交換
- ・海外主要都市への渡航調査等
- ・開発途上国への技術支援、協力
- ・国や学会、業界団体等が主催・参加する国際会議の開催状況調査

○グローバル専門人材の交流促進

- ・グローバル専門人材のコミュニティや人材活用に向けた交流サイトの構築
- ・海外留学先候補のリスト化



主な実施内容

データの追加 : +248件
バージョンアップ : 利用者へのアンケート結果に基づく改良
(検索自由度、操作性、視認性の向上)

渡航・受入の実績都市数
令和7年度 : 175都市(予定含む)
(参考)令和6年度 : 144都市

重複を含む延べ数で記載

研修生同士の交流サイトを構築・運用開始
海外留学先候補のリスト作成

●海外交流実績の整理・分析・共有（1 / 2）

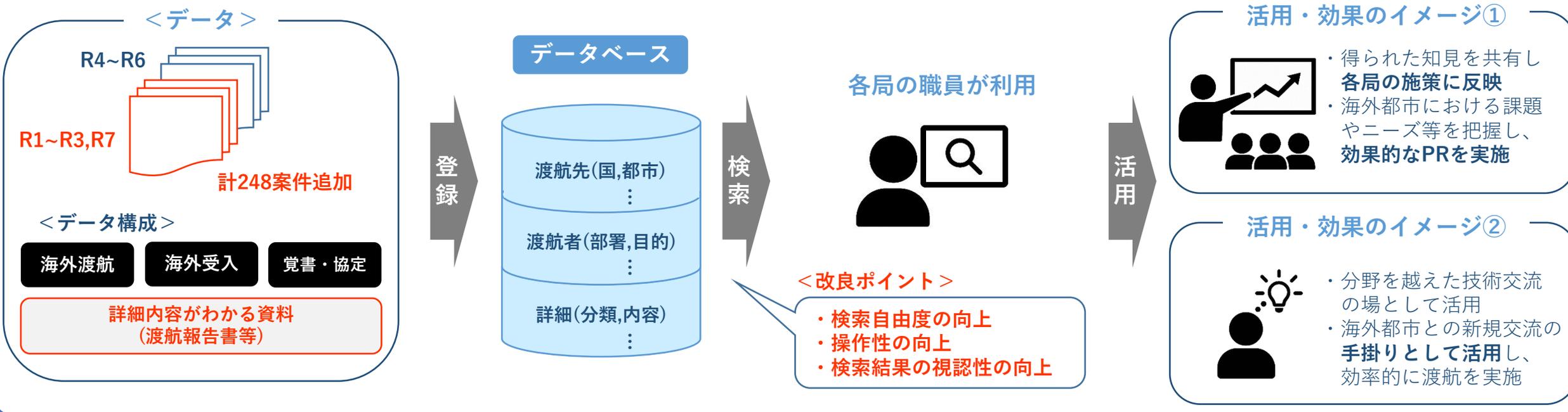
<海外交流実績データベース：対象期間拡大、バージョンアップ>

概要

- 昨年度作成したデータベースについて、対象年度を拡大しデータを追加するとともに、利用しやすい方式にバージョンアップ
- データベースを活用し効果的なPR戦略を検討
- 海外交流の手掛りとして活用可能な海外交流事例集を作成

実施内容

- 海外交流実績データベースのデータ追加とバージョンアップ



今後に向けて

- ・データベース及び海外交流事例集を庁内へ公開し、効果的なPRや海外交流の手掛りに活用

概要

○国際発信ツール（PRペーパー等）を更新し、国際イベントにおいて活用することで効果的な情報発信を実施

実施内容

○Smart City Expo World Congress 2025 (SCEWC)
(デジタルサービス局、ほか)

< 日程 >

< 場所 >

令和7年11月4日～11月6日

スペイン (バルセロナ)

< 概要 >

- ・社会課題解決に資するソリューションを提案する企業・団体が世界の約850都市から参加する、世界最大級のスマートシティをテーマとしたイベント

< 取組 >

- ・地震対策に関するパネル展示、東京都における強靱化に資する施策のスライドショー放映にPRペーパーを活用

○国際発信ツールの更新・作成 (下水道局、環境局)

< 取組 >

- ・常に最新の技術を効果的に発信するため、都の新たな施策を追加するとともに、活用時に得た海外のニーズ等を的確に把握し、都度国際発信ツールを更新・作成



[TOKYOパビリオン]



[PRペーパー、Tokyo Tech Book 活用状況]

下水道管のリニューアル 下水
 道路を掘らずに下水を流しながら既設の下水道管内に塩化ビニル製プロファイルをせん状に巻き立て下水道管を更生する工法



- ・再構築後は管内側の面積がやや小さくなるが、表面が滑らかになることで、再構築前と比べて水の流れやすさが10%程度向上 (※管径800mm以上の場合)
- ・2025年3月末現在、アジア、北米、ヨーロッパなどで累計約199km施工

[SPR工法をわかりやすく更新]

Airソーラーの普及拡大 環境
 薄く・軽く・曲がる日本生まれの次世代型太陽電池
 エネルギーの安定確保と脱炭素化を両立する「発電する未来都市」を創出

1 国産技術・国産資源の活用

日本生まれの革新的技術

2 都府施設への先行導入

晴海客船ターミナル (予定)

3 世界初のMW級民間プロジェクト

サウスタワー(西館)
内幸町一丁目開発プロジェクト

国産技術 65%
国産資源 26%

※その他
主要原料のヨウ素は日本が世界シェア2位

[Airソーラーを新規作成]

今後に向けて

・技術力をより効果的に発信するため、AI等も活用し国際発信ツールを更新・作成

●国際会議等における先進的な取組の発信（1 / 3） <海外技術者との交流> <国際会議等でのプレゼン、ブース出展>

概要

- 海外技術者との意見交換やインフラツアールにおける技術の発信を通じ、世界共通の課題解決に向けた都市間連携を推進
- 各都市の技術者が集まる国際会議等でインフラ技術に関するブース出展等を行い、国際発信力を強化

実施内容

○気候変動を踏まえた海岸施設のあり方の調査・研究（港湾局）

<日程> 令和7年8月26日～9月3日
<場所> イギリス(イングランド南部地方)、オランダ(南ホラント州、ゼーラント州)

- <取組>
- ・世界共通の課題である気候変動適応策として、水害分野における先進的な取組の現地調査及び意見交換を実施
 - ・調査で得た景観や環境等に配慮した海岸施設の計画・管理などに関する知見を都の島しょ部海岸施設整備検討に活用



[ヒアリング・意見交換の様子]



[景観・環境に配慮した護岸の嵩上げ]

○第98回米国水環境連盟年次総会（WEFTEC2025）（下水道局）

<日程> 令和7年9月29日～10月1日
<場所> アメリカ（シカゴ）

- <取組>
- ・SPR工法や水面制御装置等を紹介するブース出展による技術の発信や、大深度の下水道管をテーマとした意見交換等を通じ、海外技術者と交流

- <ブース訪問者の主な反応>
- ・道路を掘削せず管路を内側から補強できるSPR工法を高く評価
 - ・電力等のエネルギーを必要としない水面制御装置は画期的



[水面制御装置を説明]



[海外技術者との意見交換]

今後に向けて

- ・激甚化する自然災害など、世界共通の課題解決に向け、国際会議等での都が保有する技術やノウハウの発信や、各都市の技術者との意見交換を実施

●国際会議等における先進的な取組の発信（2 / 3） <海外主要都市への渡航調査> <開発途上国への技術支援・協力>

概要

- 国際ネットワークを活用し、海外主要都市への渡航調査を行い、先進事例や新技術等の知見を集積し、施策への反映を検討
- 開発途上国との現地調査や意見交換を行い、インフラ分野における技術協力を実施

実施内容

○ニューヨーク市におけるアフォーダブル住宅の供給及び保全（住宅政策本部）

<日程>

令和7年10月6日～12日

<場所>

アメリカ（ニューヨーク）

<取組>

- ・急激な家賃高騰と住宅不足に対応するためニューヨーク市が取り組む**アフォーダブル住宅**について「供給」及び「保全」の観点から調査
- ・ニューヨーク市のアフォーダブル住宅を**視察**するとともに、**意見交換を実施**することで**相互の課題・背景を共有**し、今後も情報交換が可能な関係を構築



[公営住宅を視察]



[住宅局と意見交換]

○ルワンダ共和国水道事業体(WASAC)への技術支援・交流促進に向けた現地調査（水道局）

<日程>

令和7年8月24日～8月29日

<場所>

ルワンダ（キガリ）

<取組>

- ・令和5年から交流を開始し、**令和7年2月**に水道局、東京水道（株）、ルワンダ共和国水道事業体の三者間で**合意書締結**
- ・**8月に現地を訪問**し、意見交換・セミナー等で交流を図るとともに、水道施設等を視察し、ルワンダの水道事業に関する実態を調査
- ・調査結果を踏まえ、水道事業の**DX等をテーマに計4回のオンラインミーティング**を行い、技術協力を実施



[東京の水道技術に関するセミナー]



[ルワンダの水道施設を視察]

今後に向けて

- ・先進事例調査を推進し、新技術等の知見を集積することにより、都が直面する課題への対応に活用
- ・開発途上国との現地調査や意見交換結果を今後の技術協力へ活用

●国際会議等における先進的な取組の発信（3 / 3） < SNSによる技術の発信 >

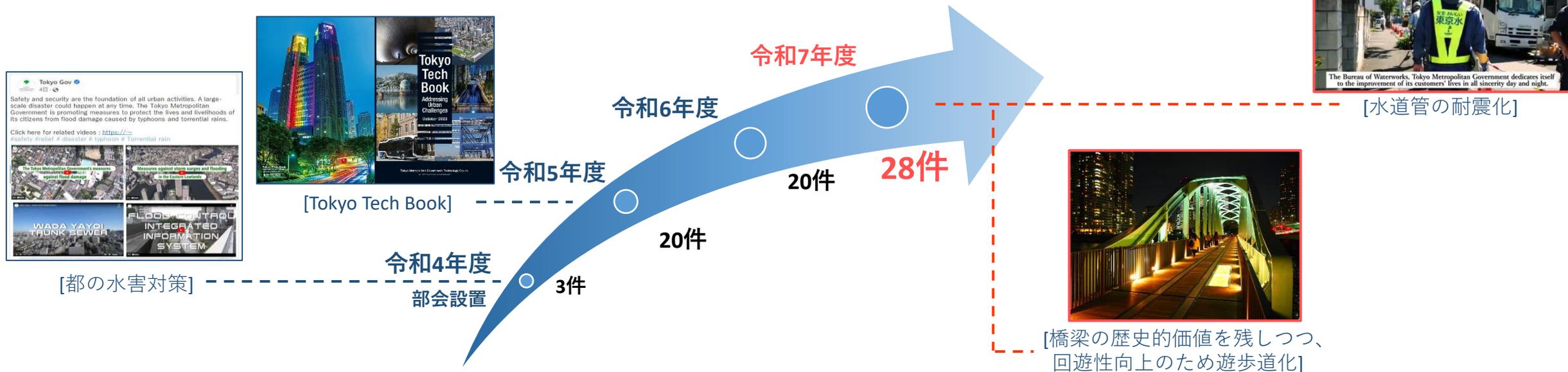
概要

- 東京都が保有する技術・ノウハウについて、海外向けSNSを活用し効果的な情報発信を実施
- 国や学会、業界団体等が主催・参加する国際会議の開催状況を調査し、都の技術を発信できる機会を把握

実施内容

○海外向けSNSによる技術・ノウハウの発信

- ・Tokyo Tech Bookの施策や各局が保有する技術等について、海外向けのXやInstagram等を活用し情報発信



今後に向けて

- ・国際会議の開催状況調査結果を考慮し、SNSを活用した効果的な技術発信を実施

●グローバル専門人材の交流促進

概要

- 第120回技術会議において、「都グローバル専門人材活用ビジョン」を決定
- 本ビジョンに基づき、「海外研修『大学院派遣プログラム（留学プログラム／都グローバル専門人材）』」の研修生を募集
- グローバル専門人材の活用に向け、各局のグローバルな活動に最適な人材を登用できる仕組みや、人材同士のコミュニティ形成を支援

実施内容

○グローバル専門人材の研修生への支援等

- ・各局を通じて、**研修に関心のある職員への働きかけ**を実施
- ・総務局において、5月に令和8年度派遣研修生、10月に令和9年度派遣研修生を募集し、それぞれ研修候補者を選定
- ・**総務局と連携し**、研修候補者への面談等により**サポートを実施**

○人材のコミュニティや人材活用に向けた交流サイトの構築

- ・デジタルサービス局を通じて、交流サイトの構築方法を相談しながら、複数のプラットフォームを比較検討、**構築に向けた課題等を整理**
- ・Microsoft Teamsを活用した**交流プラットフォームの運用を開始**

○海外留学先候補のリスト作成

- ・委託事業者を活用し、**留学先候補となる海外大学院のリストを作成**
- ・欧州にある国内大学の拠点へのヒアリングにより、東京の強靱化に関連する研究を行っている大学情報や留学事情等を調査

今後に向けて

- ・海外留学先候補となる大学院リストを研修応募者へ提供
- ・研修生同士の交流を目的としたプラットフォームの運用
- ・引き続き、総務局と連携しながら研修候補者、研修生へのサポートを実施

●海外交流の活用事例

～G-NETS参加都市との連携強化～

概要

- 令和4年のG-NETS立ち上げ以降、激甚化する自然災害等の世界共通の課題解決を目指し、海外都市と継続的に交流し連携強化
- 今年度は実務責任者級会議や実務担当者レベルなど、複数の視点で知見共有や技術交流を行い、多角的な議論を実施

実施内容

- 実務責任者級会議において、災害対策セッションで洪水対策について発表（建設局）
- 実務担当者レベル（ワーキンググループ共同プロジェクト）による交流（港湾局、水道局ほか）

インバウンド（G-NETS参加都市→都）

<日程>
・7月、9月、11月（各2日間）計3回実施

<視察先(参加都市数)・テーマ>

- ・ゆりかもめほか (11都市)・交通分野の省エネ・再エネ
- ・高潮対策センターほか (8都市)・臨海部の防災対策
- ・明治公園ほか (10都市)・都市緑化

<意見交換会における主な意見>

- ・都はクリーンエネルギーへの転換が着実に進んでいることが特に印象的だった
- ・防災アプリは直感的に使いやすい。自身の都市でも導入したい



[ゆりかもめを視察]



[排水機場内の施設等を視察]

アウトバウンド（都→G-NETS参加都市）

<日程>

・9月（政策企画局）、11月（水道局）、1月（都市整備局）に渡航

<訪問先>

- ・政策企画局：3都市（アムステルダム、ロッテルダム、ベルリン）
- ・水道局：3都市（パリ、ブリュッセル、アムステルダム）
- ・都市整備局：1都市（ロサンゼルス）

<取組>

- ・グリーンインフラや洋上風力など、まちづくり・環境分野について調査し、計画策定や今後の施策検討に役立つ知見を獲得
- ・AIを活用した漏水調査などについて調査し、都の取組へ反映
- ・自動運転レベル4実装状況を調査し、都の施策検討に活用



[意見交換の様子(水道局)]



[自動運転車両の車内の様子(都市整備局)]

知見共有

多都市間連携

技術交流

今後に向けて

・G-NETSの枠組みを一層活用するなど、技術分野において海外都市との連携を強化

技術力維持向上部会

I 技術職員確保の取組強化

①大学等への訪問

②任期制退職予定自衛官向け説明会

③学生・合格者向けの取組

- ・ 技術・福祉系現場見学会
- ・ 局別／職種別事業説明会（オンライン）
- ・ 本庁現場見学会

④情報発信（東京TECHブログ）

大学等への訪問

- ・ 学生らに都庁の魅力や新たな試験制度をPRする。
- ・ 大学主催の就職説明会への参加、キャリアセンターや就職担当教授等を通じた小規模説明会の開催など、**学生と対話の機会を創出する。**
- ・ 大学訪問先をリスト化し、訪問先の事前把握、進行管理を徹底する。

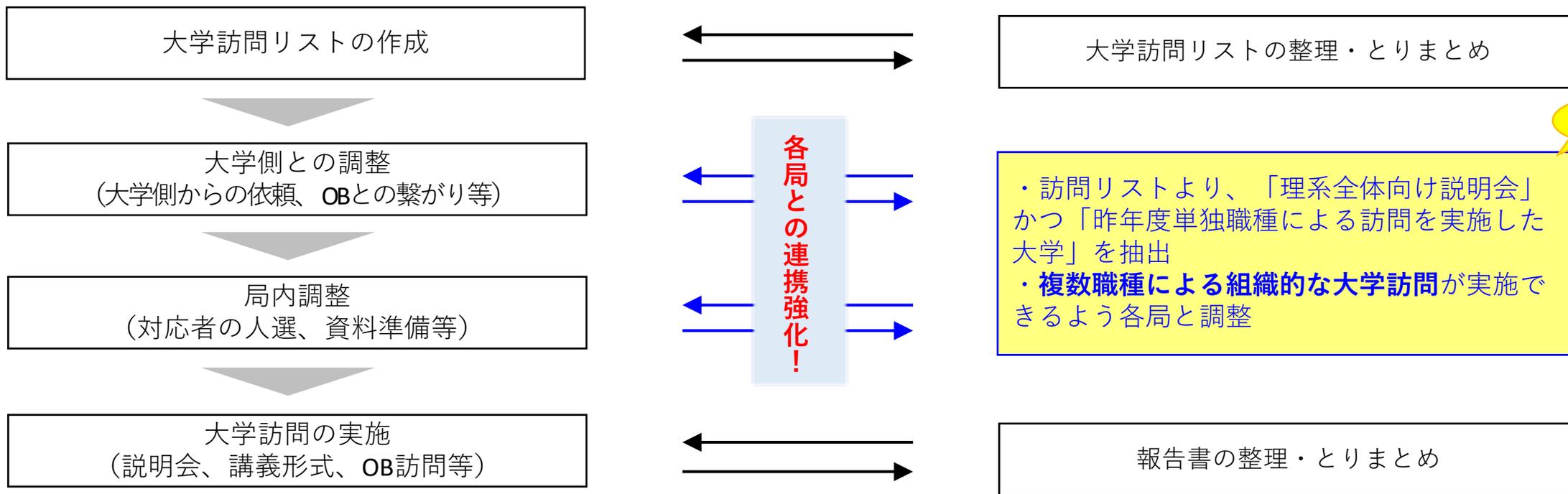
今年度からの新たな取組

NEW!

- ・ 技術職の採用倍率が減少傾向であるなか、採用PRのターゲットを拡大するため、「理系全体向け説明会」かつ「昨年度単独職種による訪問を実施した大学」を抽出し、**各局と連携しながら複数職種による組織的な大学訪問**の候補先を検討する。
- ・ 採用PR資料に奨学金支援制度や海外大学院派遣制度の話盛り込むなど、リニューアルを実施

大学訪問実施局

技術力維持向上部会



大学等への訪問

R7実績 (R8.1月末時点)

大学等訪問 (実施済) 48回 【参考：R6実績】
 (実施予定) 12回 大学等 56回
 計 60回

学生からの質問

- ☑入都して民間企業との違いを感じることはありますか？
- ☑実際に働いてから魅力に感じている点は何ですか？

学生の反応

- ☑職員のキャリアパス・配属先・待遇への関心が特に高かった。
- ☑最大3年後まで採用希望年度を選択できる制度への関心が高い様子だった。

次年度に向けて

引き続き学生に向けてPRするとともに、組織的な大学訪問を拡大
 大学側からの要請に応じ、都が持つ現場の見学受入も実施
 (例：R8.4に東京都市大学の学生約120名が下水道局施設を見学予定)

複数職種による組織的な大学訪問先

NEW!

大学名	主対応局 (参加局)	対象職種	開催時期
東京大学	都市整備局 (都整、住政、交通、下水)	土木・建築・機械・電気	5月12日
東京科学大学	下水道局 (下水)	機械・環境検査	7月23日
筑波大学	下水道局 (下水)	土木・機械・電気	10月29日
東洋大学	下水道局 (下水、住政、水道、交通)	土木・建築・機械・電気	11月5日
日本大学	交通局 (交通)	土木・建築・機械・電気	11月10、17日
日本大学	都市整備局 (都整、下水)	土木・建築・機械・電気	11月12日
法政大学	港湾局 (港湾)	土木・建築	11月25日
工学院大学	都市整備局 (都整、水道、交通、デジ)	土木・建築・機械・電気・ICT	1月29日
日本大学	水道局 (水道、建設、都整、交通、デジ)	土木・建築・機械・電気・ICT	2月4日
東京理科大学	建設局 (建設、住政、交通、水道、デジ)	土木・建築・機械・電気・ICT	2月17日
芝浦工業大学	都市整備局 (都整、交通、水道、下水)	土木・建築・機械・電気・ICT	2月27日

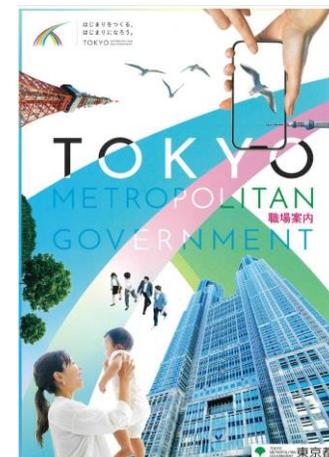
就活イベント

○就活イベント

- 6月22日 インターンシップ&キャリア発見フェア (東京ビッグサイト)
- 9月 8日 都庁×理系キャリア発見フォーラム (新宿マインズタワー、各局現場)
- 2月18日 専門職オンライン相談会

○パンフレット

職場案内



技術職員確保の取組強化 主な取組内容

- 経験者採用のPR
- 技術職の仕事内容や魅力を体感出来る機会の創出
- 入都試験合格者へのフォロー

任期制退職予定自衛官向け（説明会）

NEW!

・任期を定めて任用され、再就職を予定している「任期制退職予定自衛官」向けの合同企業説明会に今年度から新たに参加し、**経験者採用も含めた人材確保の促進**を図る。

- 開催日：令和7年8月27日（水）10:10～15:40
- 参加者：18名
- 場 所：東京流通センター

参加者からの質問

- ☑ 経験者採用について詳しく教えてください。
- ☑ 自衛隊と都で似ている仕事内容はありますか？
- ☑ 入都する前と後でギャップはありますか？



説明会実施状況

学生向け（現場見学会）

現場見学会

技術職の仕事を知ること、**学生の採用試験受験を促す。**

- 開催日：令和7年8月～9月
- 参加者：98名

実施後アンケートより

- ☑ 実際の業務を具体的にイメージできた。
- ☑ 業務等の解像度がより高くなった。
- ☑ 東京都庁で働く魅力を強く感じる事ができた。
- ☑ 働き手となった時のことを想像でき、志望度が増した。



環状第5の1号線地下道路荒川線 併行部建設工事【交通局】



都営住宅（北区王子本町三丁目）工事【住宅政策本部】



市場衛生検査所【保健医療局】

現場見学会実施状況

合格者向け（事業説明会・現場見学会・本庁職場見学会）

事業説明会

都庁技術職の魅力を伝え、**就職先のプライオリティを高める。**

- 参加局：下水、交通、水道、建設、港湾、都整、住政、財務
- 開催日：令和7年7月28日（月）
- 申込者：76名

現場見学会

技術職の仕事を知ること、**合格者の入都を促す。**

- 開催日：令和7年8月～9月
- 参加者：111名

本庁職場見学会

入都に対する不安を払拭する。

- 開催日：令和7年8月20日（水）
- 参加者：36名



オンラインによる 事業概要説明



本庁職場見学会実施状況

次年度に向けて

現場見学会や本庁職場見学会の参加希望者が多いため、次年度も引き続き対面型PRイベントを実施する

東京TECHブログ等による情報発信強化

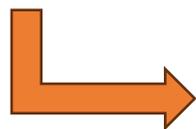
東京都の技術職の仕事の魅力等をブログで発信し、都政への興味関心を高める契機とする

R7実績

- ・東京TECHブログ5件更新
- ・インフラポータルサイトにTECHブログへのバナー設置
- ・記事の内容において1つの記事に現場と本局の両業務を紹介
- ・記事をX（旧Twitter）やアプリで紹介



水道局作成記事



水道局のSNS等に掲載

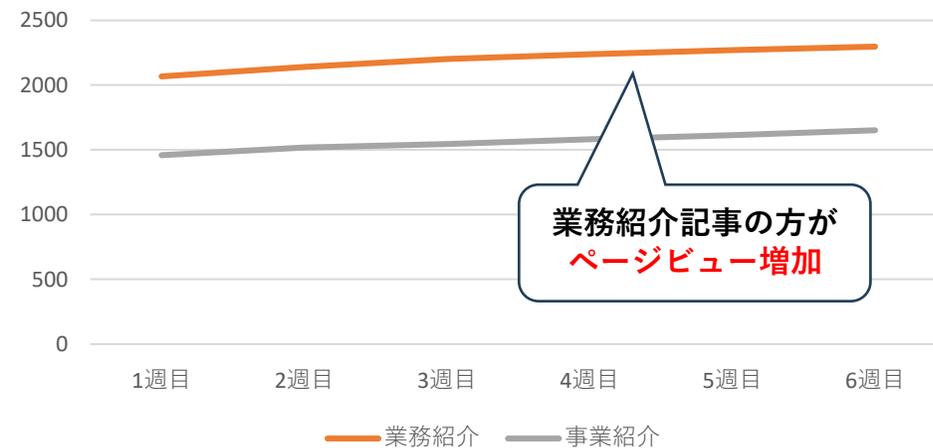


X（旧Twitter）水道局・下水道局アカウント

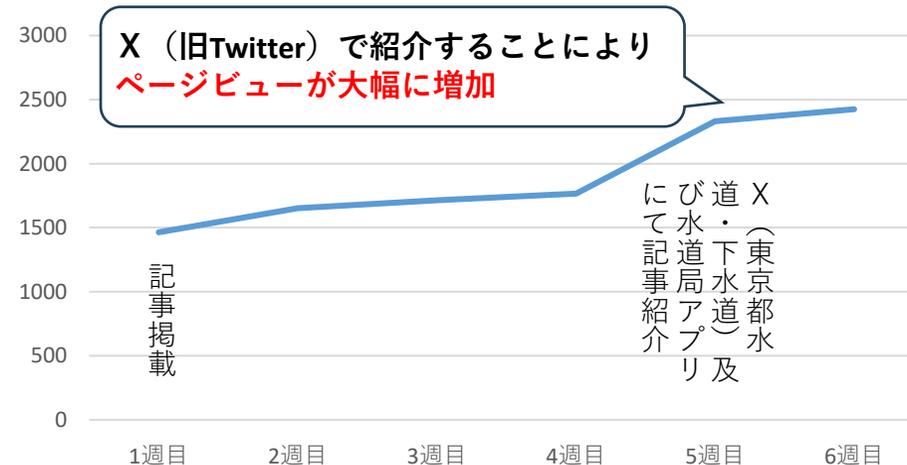


水道局アプリ

記事内容によるページビューの違い



掲載開始からのページビュー数の推移



II 技術力の蓄積に向けた取組の推進

- ①現場講習会の充実（職員向け・各局インフラ施設等の視察）
- ②ICT・DXを含む先端技術の研修
- ③TOKYO空き家活用魅力発信プロジェクトの支援

※今後「技術職員確保の取組強化」にも関係する可能性があるもの

- ④課長代理級職員向けアンケート
- ⑤キャリアモデルの活用
- ⑥女性技術職員の活躍に向けたWAの取組との連携

現場講習会（職員向け）

各局のインフラ施設の現場視察を通じ、**広範にわたる都庁技術者の役割と求められる技術力を学ぶ。**

- （目的）強靱で持続可能な都市の実現に向けた取組などについて現場で体感
- （参加者）技術職員 主事、主任級を主とする。
- （内容）施設見学、事業説明等
- （各局役割）見学会の開催。局内（募集等）調整。

R7実績

※現場条件の制約のため参加人数を絞って開催

開催局	現場名	開催日	申込者数／定員	倍率
下水道局	新河岸水再生センター	10月17日	29名／19名	1.5倍
都市整備局	新宿駅直近地区土地 区画整理事業	10月29日	77名／14名	5.5倍
水道局	東村山浄水場	11月5日	47名／19名	2.5倍
交通局	志村車両基地	11月20日	34名／15名	2.3倍



新河岸水再生センター



新宿駅直近地区
土地区画整理事業



東村山浄水場



志村車両基地

実施後アンケートより

- ☑ 写真だけでは把握しきれない現場の状況を実際に訪れることでより理解が深まりました。
- ☑ 局間異動の可能性があるので、今後も実施してほしい。
- ☑ 他局の職場を見学することができ、主任昇格後のキャリアの参考になった。

次年度に向けて

次年度も引き続き、局横断的に建設現場等において講習・見学会を実施

ICT・DXを含む先端技術の研修

建設業における先端デジタル技術や、民間事業者の持つ専門性や取組方法を学び、知見を深める

- 見学先：NTT東日本(株)－現場力向上フォーラム－
- 開催日：令和8年1月21日（水）10:00～12:00
- 参加者：18名
- 場 所：NTT中央研修センター
- 内 容：通信故障修理技術やドローン技能競技会及びデジタル技術等展示見学

実施後アンケートより

- ☑ NTT東日本による最新の技術動向を学べ、どの展示も非常に興味深かった。
- ☑ 若手技術者の育成に向けた取り組み（競技）や新技術の導入事例を多く知れて勉強になった。
- ☑ DX等について民間の取り組み、スピード感を肌で感じることは、都の施策を考える上で重要だと感じた。
- ☑ 民間企業の見学は今後も続けてほしい。

次年度に向けて



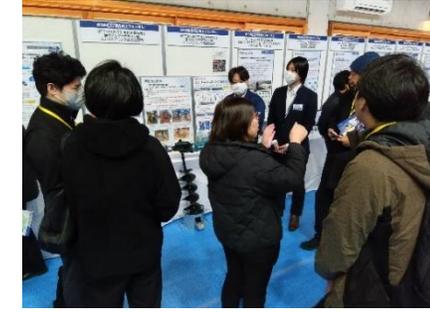
災害時避難所支援展示



美術品デジタル化



ドローン競技



展示見学

引き続き技術研修を実施し、デジタル技術や民間事業等の最新の技術・取組に対する理解を深める。

TOKYO空き家活用魅力発信プロジェクトの支援

<住宅政策本部の取組支援>

- ・技術会議の枠組みを活用し、職員チームの活動を伴走型で支援
- ・現地調査やデザイン作成における技術支援を実施

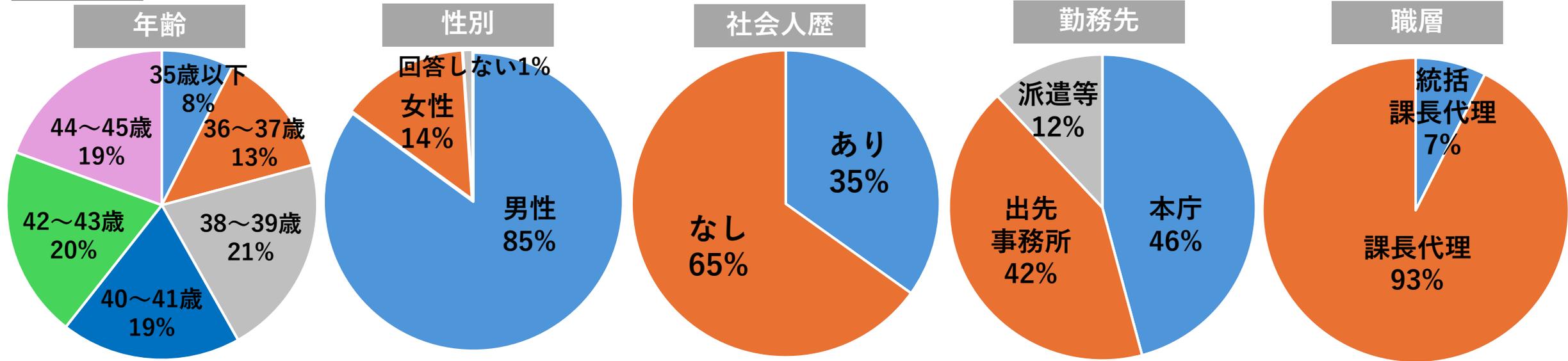
次年度に向けて

工事中の現場見学会や完成時の報告会の開催などを通じて、経験・知見を庁内へ還元

技術力の蓄積に向けた取組の推進 主な取組内容

課長代理級職員向けアンケート

概要	課長代理級技術職員が技術力不足や将来のキャリア形成等について普段から感じている事柄を把握し、技術職員の人材育成、定着に向けた取組を検討するため、アンケートを実施
実施期間	令和8年1月14日（水）～1月28日（水）で実施
調査対象	年度末年齢45歳以下の課長代理級技術職員（土木、建築、機械、電気、ICT、専門職※医療技術含む）
回答数	576名（62%の回答率）
属性	

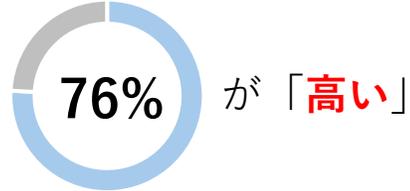


業務実態

● 業務量



● 業務の難易度や専門性



● やりたい仕事



● 業務を通じてスキルアップ



技術力の蓄積に向けた取組の推進 主な取組内容

課長代理級職員向けアンケート

職場環境の満足度

- ライフワークバランス



- 職場のコミュニケーション



- 上司や同僚のサポート



キャリア意識

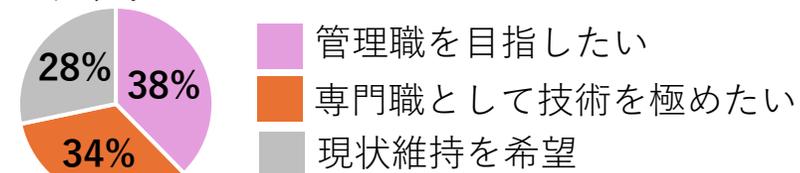
- 仕事にやりがい



- 昇進意欲



- キャリアビジョン

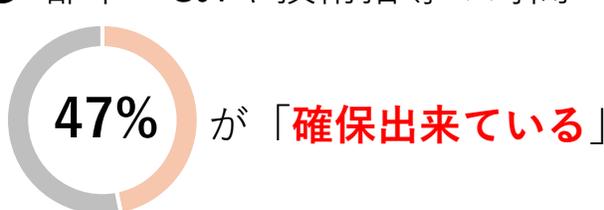


技術力維持向上

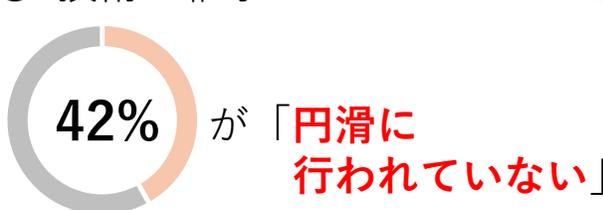
- 技術力の維持



- 部下へOJTや技術指導の時間



- 技術の継承



- DXや新技術への職場の取組



今後の展開

✓ R6年度若手技術職員アンケート結果を踏まえた分析を行い、技術職員の人材育成、定着に向けた取組を推進

キャリアモデルの活用

異動のモデルパターンを整理し、将来のキャリアプランにかかるイメージを持ちやすくする

- ✓ キャリアを“見える化”し、本人だけではイメージできなかった将来の自分を前向きに描けるように
(+ 学生のキャリアへの関心は高く、職員確保にも有効なツールに?)

➔ 都庁で働くモチベーションの維持向上につなげる

R7実績

- ・ 機械・電気職の概要版及び詳細版のプロトモデルを作成
- ➔ 四大技術の概要版・詳細版のイメージが出揃う

キャリアモデル作成 (試行)

概要

異動のモデルパターンを整理し、将来のキャリアプランにかかるイメージを持ちやすくするためキャリアモデルを作成する

対象

試行として技術力維持向上部会 部会員・担当者よりサンプル抽出

回答数

土木：22 建築：11 電気：2 機械：2 環境検査：3 造園：1 水産：1 林業：1

結果

- ・ サンプルを収集したが、特定の分野に偏っていたため、更なるサンプル収集が必要
- ・ 業務区分（計画、設計、施工監督、など）については職種により選択が難しい等の意見もあり、要検討

機械・電気職① 本庁タイプ

■主に、本庁での計画や調整、設計業務を重ねてキャリアアップする場合



機械・電気職版の一例



今年度中に試行版としてまとめ、庁内関係者と調整
今後、庁内関係者の意見を踏まえ、サンプル数を増やし試行版の改善

女性技術職員の活躍に向けたWAの取組との連携

- ・ WA (Women in Action) の取組と連携し、女性技術職員の確保及び活躍を推進

R7実績

- ・ 「WA × 東京都技術会議 ネットワーキングフォーラム」を開催

2月4日(水) 14:00~16:30 (オンライン併用開催)

✓ 東日本旅客鉄道(株)代表取締役副社長 伊藤様の**基調講演**

✓ **66人の参加者**が興味・関心を軸に自由に**グループトーク**

➔ 職員同士の**横のつながりを活性化**したと共に、
参加者全員で**多様な視点を共有**

- ・ **50社以上の企業が参加した夏期「女子中高生向けオフィスツアー※1」を視察**

※1 生活文化局の取組

✓ STEM※2分野での女性活躍を推進

※2 Science (科学)、
Technology (技術)、
Engineering (工学)、
Mathematics (数学) の4分野の総称

次年度に
向けて

生活文化局のオフィスツアーへの協力等、
女性技術職員の定着や確保を一層推進



グループトーク



グループトーク



松本副知事と谷崎都技監による
共同宣言



Ⅲ 区市町村等との技術連携の取組

- ・ 区市町村等における技術面の課題把握、ヒアリング

区市町村等との技術連携 主な取組内容

区市町村等との技術連携

概要

都市のインフラは多様な主体（国・都・区市町村）による適切かつ継続的な管理・整備が必要
 区市町村の技術職場において、技術職員の技術力の維持向上を図る上での課題や取組等の実態を詳細に把握し、区市町村への技術支援に向けた取組を検討するため、アンケートを実施

調査対象

23区・多摩地域の市町村の技術職場

回答数

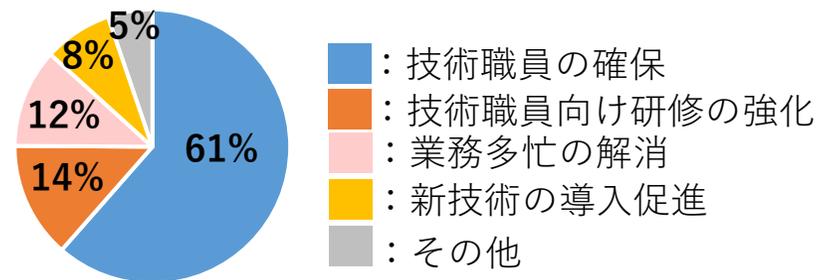
53自治体（100%の回答率）

課題

● 技術職員の技術力水準の維持の観点で業務執行に課題がある分野

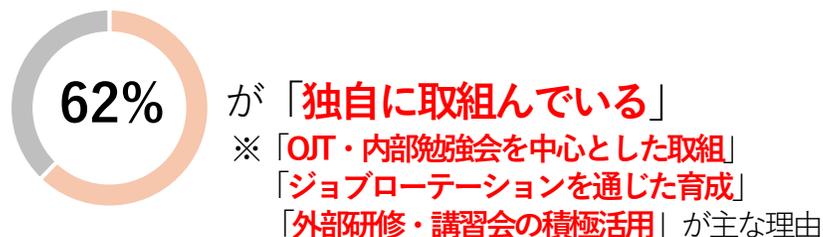
	課題がある分野	回答数
第一位	道路	42
第二位	まちづくり	31
第三位	都市計画	29

● 技術職場において、課題解決のために必要と考える取組

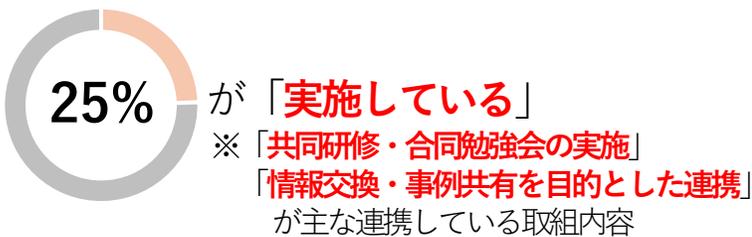


技術力維持向上を図る取組

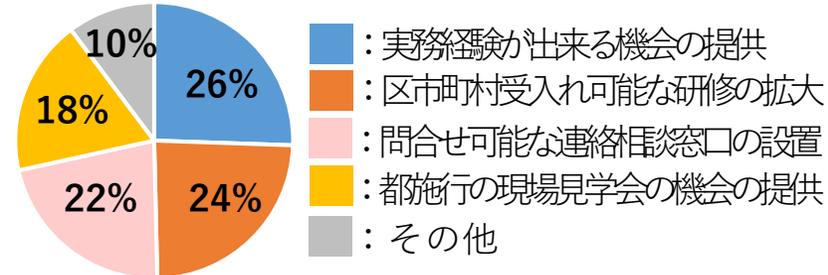
● 区市町村独自の取組



● 周辺自治体と連携した取組



● 区市町村が東京都に期待する取組



今後の展開

✓ 区市町村へのアンケート結果を踏まえ、具体的な技術力維持向上を図る取組を検討し、区市町村への技術支援を推進

生産性向上部会

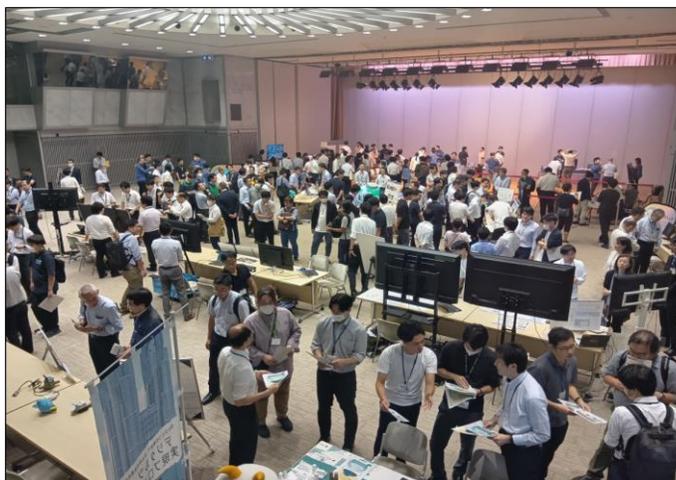
開催概要

ねらい

- ・ DX・AI を利活用している各局取組について、技術職員に知り・触れ・体験してもらう
- ・ 行政サービスの質を高めるとともに職員の「手取り時間」を 創出するため、DX・AI の徹底的な利活用による、業務の一層の効率化・生産性の向上を目指す

開催結果

- ・ 開催日時：10/8 13:00~16:00
- ・ 都庁各局19ブース出展
- ・ 参加人数：565名（うち区市43名参加）



当日の様子

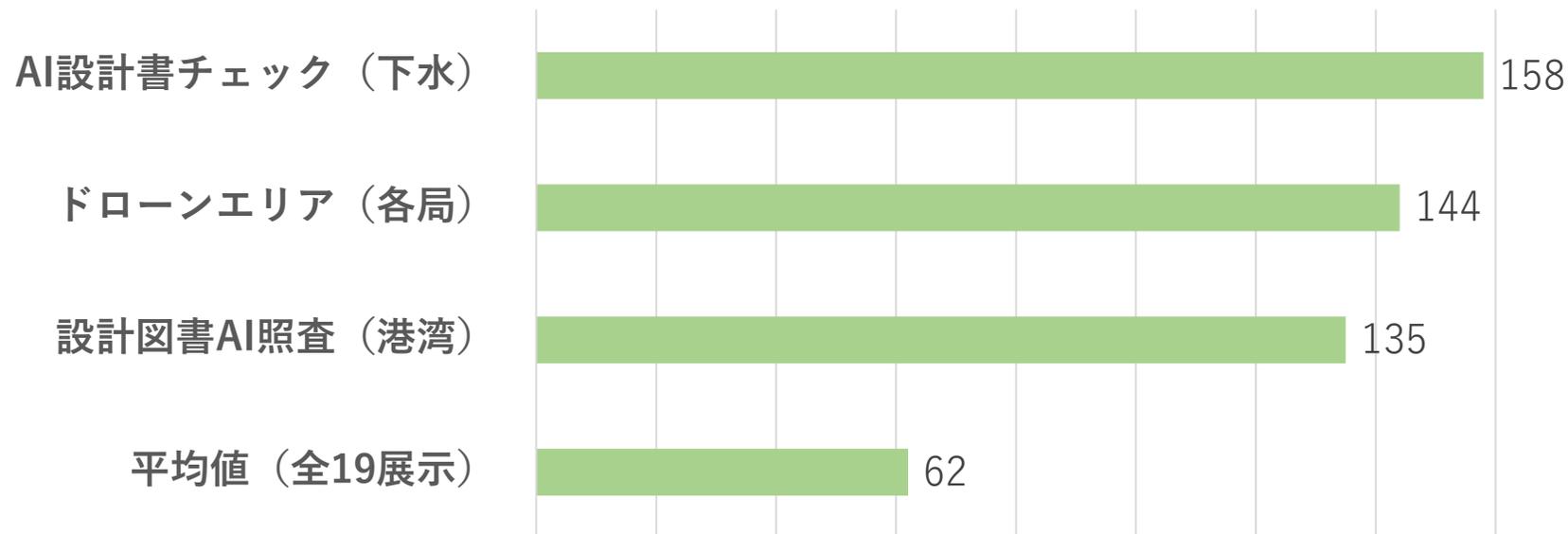
区分	No.	ブース名	所管局
VR	①	閘門の仕組みを学ぶXRコンテンツ	建設局
	②	VRを活用した体験型研修	水道局
	③	高精細VRを活用した新宿グランドターミナルの再編検討	都市整備局
	④	防災都市づくりVR（仮称）	都市整備局
AI	⑤	AIによる浄水場での薬品注入支援	水道局
	⑥	AI設計書チェック支援システム	下水道局
	⑦	AI巡視点検ロボット	下水道局
	⑧	設計図書AI照査	港湾局
	⑨	都市整備局版ベース・レジストリにおけるAI活用(仮称)	都市整備局
DX	⑩	住民説明会における完成イメージ動画の活用	建設局
	⑪	3Dデータを活用した道路の維持管理の高度化	建設局
	⑫	東京みなとDXシステム・離島港湾情報プラットフォーム	港湾局
	⑬	水道スマートメータ	水道局
	⑭	デジタルツイン	デジタルサービス局
デバイス	⑮	タブレットによる地下鉄構造物維持管理	交通局
	⑯	デジタル端末による駅消火設備維持管理	交通局
	⑰	スマートデバイスを活用した点検支援	水道局
	⑱	スマートフォンアプリを用いた都営住宅の応急危険度判定	住宅政策本部
その他	⑲	ドローン展示	各局

開催概要

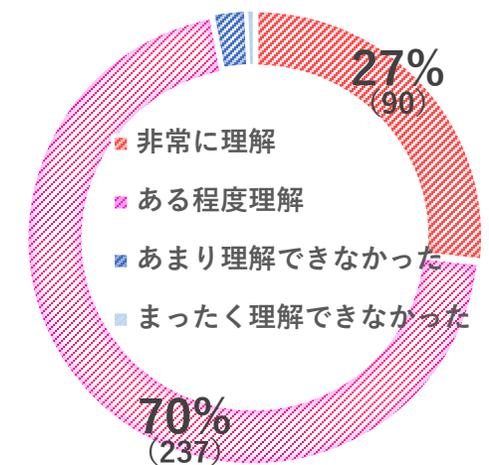
参加者アンケート

- ・ DX・AIへの理解が深まったとの意見が9割以上
- ・ 「AI」「ドローン」技術への関心が高い

特に印象に残ったブース



DX・AIの理解が深まりましたか



職員の関心が特に高い

更なる深度化に向けて

「ドローン・AI設計照査に関する意見交換会」開催

実施目的

- ・ DX・AIの活用推進を目指し、各局における取組の庁内展開を図り、試行結果の紹介や課題共有、解決策等の横展開を促進する
- ・ デジタル技術体験会で特に関心の高かった2つの項目について、各局の取組等を共有する

実施概要

ドローン・設計照査に関する意見交換会

- (1) 開催日時
令和7年12月22日(月) 9:30~11:00
- (2) 会場
第二本庁舎10階 207・208会議室
- (3) 参加局：**14局 (57名：対面25名、オンライン32名)**
- (4) 意見交換
デジタル技術体験会アンケートで職員の間関心が高かった
以下2点について意見交換を実施
①ドローンの活用 ②AIによる設計照査



意見交換会の様子

テーマ① ドローンの活用

参考事例の紹介

◆ 自立飛行による離島の遠隔点検（港湾局）

職員が常駐していない離島で、ドローンポートによる自律飛行を行い、現地状況をリアルタイムに確認



◆ 高所・狭隘箇所工事出来形確認手法（下水道局）

沈殿池槽内等の高所や狭隘な箇所に対して、ドローンからの映像を用いて形状や寸法等の出来形を確認



操縦者は槽外よりドローンからの映像を見て操作可能



撮影映像を元に作成された3Dモデル（モデル上で寸法計測が可能）

◆ 地下調節池等の施設点検における試行的活用（建設局）

施設の点検業務の高度化・効率化を図るため、一部施設の点検において試行的にドローンを採用
既往の点検と比べ、可視化出来る範囲も広がり、安全かつ迅速に点検を実施が可能



照明設備等のない地下空間でも半自律飛行が可能であることを確認



仮設足場等の設置が困難な高所においても映像による点検が可能



本点検に用いた暗所飛行可能ドローン

テーマ① ドローンの活用

○ ドローンはどのような方法で調達し、誰が操縦しているか

- ・ 自局購入で調達、職員向けに民間ドローンスクールでの研修を活用している例が多数
- ・ 一方、リース調達し、技能講習や機器メンテナンスを含めたフォローの手厚いリース契約を結んだ事例もある

○ 遠隔操作等の取組みについて

- ・ 貯水池の遠隔監視について、スタートアップと連携して検証した結果、電波通信状況等に課題を確認し引き続き検討が必要
- ・ 遠隔点検により災害時など活用の幅が広がると感じた

○ ドローン撮影による画像処理について

- ・ ドローンで取得した点群データと、画像データからそれぞれ3Dモデルを作成し優位性を比較
点群データは範囲の広い街並み再現などに優れている
一方、狭隘箇所での出来形確認等では照射が届かず、モデルが欠損するため、画像データの方が有効であり、状況に応じた使い分けが必要

○ 事例紹介した取組で業務へ活用が期待できる事例はあったか

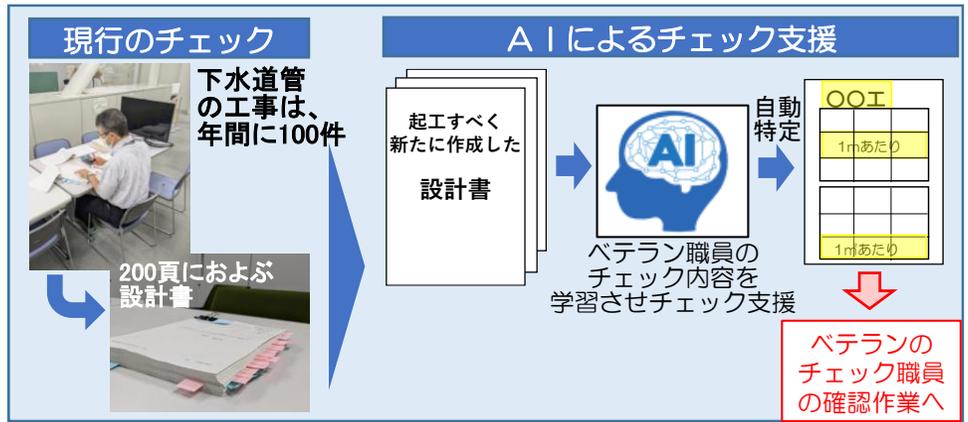
- ・ 以下のような、人力のみでは実施が困難な業務にドローン活用が有効と感じた
 - ✓ 天井の高い建屋、有毒ガス環境下の施設等の点検や出来形管理
 - ✓ 仮設足場が必要な箇所、人手や安全面で制約のある箇所の点検
 - ✓ 所管施設の高所の外壁等、大規模施設の内壁の点検

テーマ② AIによる設計照査

参考事例の紹介

◆ 設計書チェック支援システム（下水道局）

過去の設計書（約900件の工事設計書と15件の違算設計書）を元に担当技術者の視点等をAIに学習させてチェック



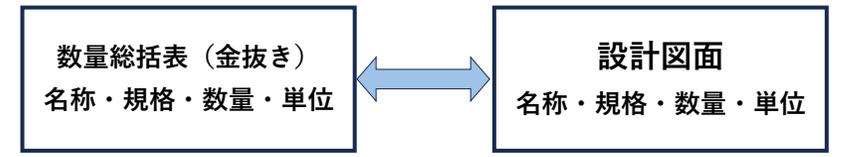
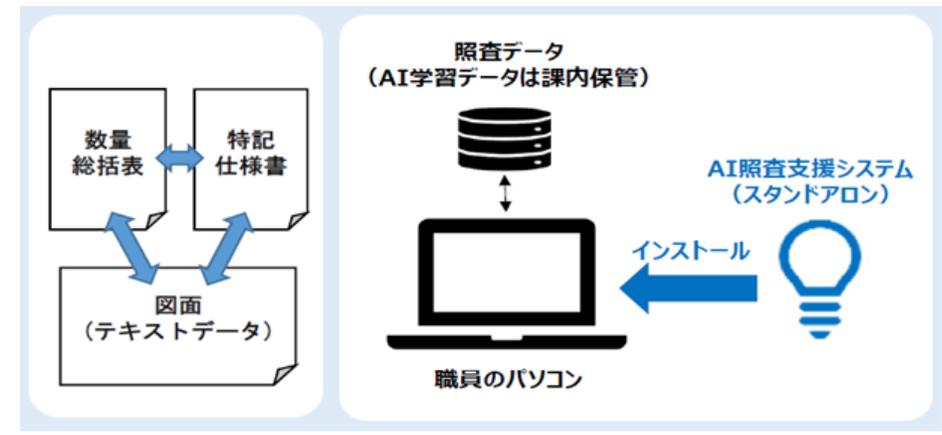
ミスや矛盾が疑われる箇所がハイライト表示される

第 0044 号		砂基礎		款			
施工区分[]		基準/単価年版 時間制約を受ける 1.14		C-19		項目	
[SN2404]		適用地区[千代田区]		6 m		節	
名称	形状	単位	数量	単価	金額	摘要	
砂基礎工(機械施工)	施工規模10m3未満 時間制約 無 改良土持出(再利用セナ)	m3	5.797	3,682	21,344	D-19-2 CO-S1A10220	
計					21,344	認識された金額は3,557は通常よりも高いです。 推定された題名: 砂基礎 通常範囲: 245 ~ 2,236	
1 m	当り				3,557		

・ 今後の更なるデータの蓄積により、時間を要するチェック作業について、**時間短縮が可能**となるよう、精度の向上を図る

◆ 設計図書AI照査（港湾局）

設計図書(図面、数量表等)間の数量等をAIで突合



内訳書と図面の記載を突合し、不一致を知らせる

- ・ 機械的な突合業務を軽減し、職員による照査を支援できる
- ・ 図面と内訳の記載規格を統一する等、課題はまだ多い状況

テーマ② AIによる設計照査

○ 照査へのAI活用方式の違いについて

- ・各局で発注する工事の特徴が異なることから、用途に応じて使い分けるのが良い

○ スタートアップと連携した開発について

- ・スタートアップの担当者には土木技術等の専門知識はないが、やりたいことを明確に伝えることで、イメージしていたシステムを迅速に形にできた
- ・スタートアップと都、それぞれの得意な部分を組み合わせることができて非常に効果的

○ 業務へ活用が期待できる事例はあったか

- ・水道局は、同じ管工事ということから、下水道局と類似した点も多いので、共に精度を高めていくことができればよいのではないかと感じた
- ・建設局では、道路・河川・公園等の整備・維持管理に係る多様な工種があるため、まずは港湾局や下水道局の事例を参考に、導入に向け検討・検証を進めたい
- ・建築や設備等の営繕工事では、内訳書や発注図書が土木とは異なる点も多いため、庁内の先進的な事例に加え、民間工事向けの技術などアンテナを広く張って検討を進めたい

事後アンケート結果

Q 自局でも活用できると感じた取組みは（複数回答可）

【紹介された各局の事例：ドローン活用5件、AI照査2件】

a. 地下調節池等の施設点検における試行的活用（建設局）

b. ドローンを活用した3次元点群データ取得及び設計への試行的活用（青ヶ島・三宝港）（建設局）

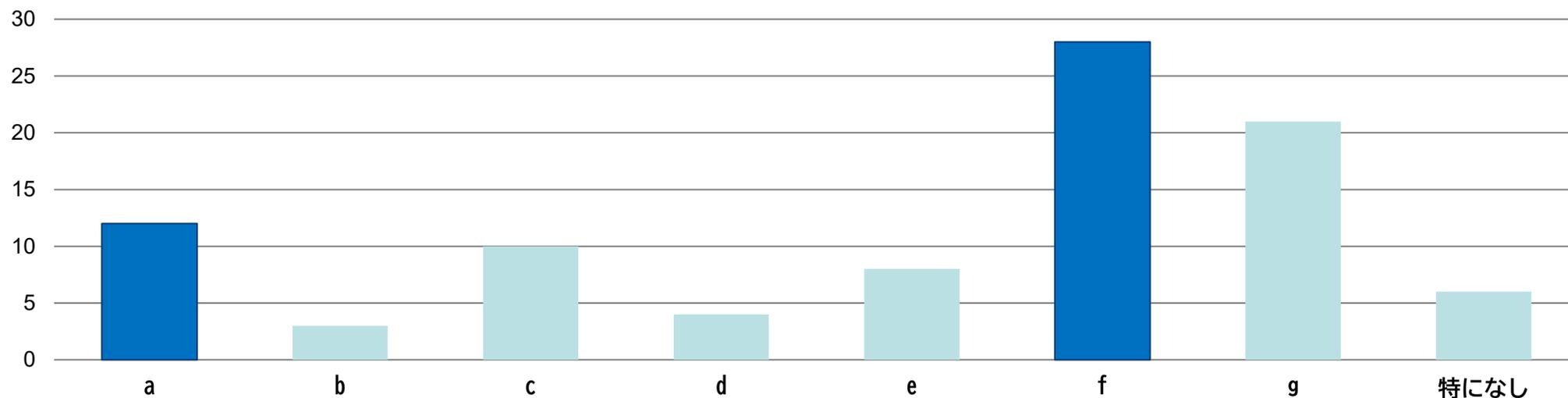
c. 高所・狭隘箇所の工事出来形確認手法（下水道局）

d. 事業用地の調査・PRへのドローン活用状況（都市整備局）

e. 自立飛行による離島の遠隔点検（港湾局）

f. AIを活用した工事設計書チェック支援システムの構築（下水道局）

g. 設計図書AI照査（港湾局）



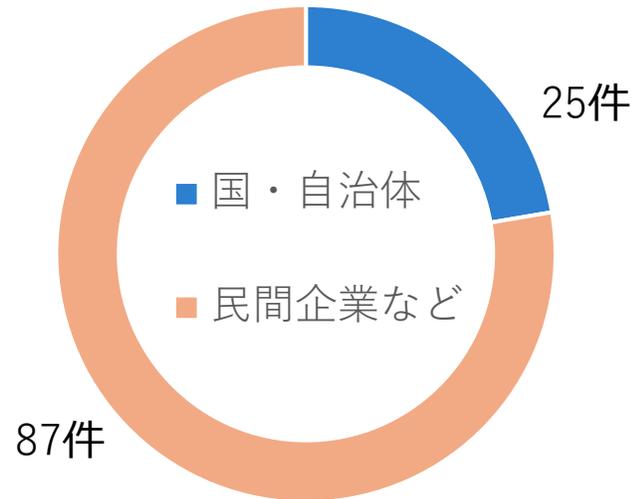
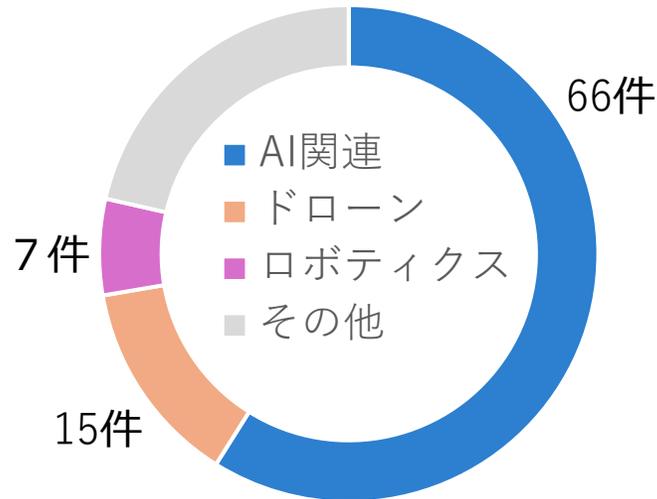
今後の展開

DX・AIに関する横展開および利活用の更なる促進につなげていく

実施概要

他自治体や民間企業等が実施する先進的なDX・AIの取組事例を調査
 調査対象 : 国、自治体、民間、スタートアップ企業
 調査分野 : まちづくり、下水道、河川、水道、道路、交通
 調査項目 : 事業者分類、活用フェーズ、技術分野、事業主体
 使用技術、導入開始時期、導入先、概要、コスト

先進的なDX・AI技術
計112件をリスト化



職員の関心が高い
「AI」「ドローン」技術を中心に
詳細版を作成

調査 No.~~~~~ (詳細版)			
事業者分類	<input checked="" type="checkbox"/> 国内上場企業	事業者	<input checked="" type="checkbox"/> 丸紅株
		導入開始時期	<input checked="" type="checkbox"/> 2023年
コア技術	<input checked="" type="checkbox"/> AI	技術分野	<input checked="" type="checkbox"/> 水道
		フェーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 試行
技術名	<input checked="" type="checkbox"/> AIとビッグデータを活用した上下水道管路劣化診断		
概要	AIとビッグデータを活用し、上下水道管路の劣化を自動診断。 > 【漏水調査エリアの優先順位付け】漏水調査範囲の限定による低コスト化、漏水発見確率を向上という形で維持管理の効率化を実現 > 【更新優先管路の選定】より破損可能性が高い管路の選定・更新することで、効果的な予防保全に繋げ、事故件数の低減、すなわち管路維持管理コスト削減を実現 > 【長期的な更新計画のシミュレーション】管路の更新率や事業費に応じた想定事故件数の推移をシナリオ別に示す事で、適切なアセットマネジメントの検討に貢献		
効果類型	<input checked="" type="checkbox"/> 業務高度化 <input checked="" type="checkbox"/> 業務効率化	想定効果	<input checked="" type="checkbox"/> 更新対象予測的中率向上 (従来モデル25%→75%) <input checked="" type="checkbox"/> 調査業務の約6倍の効率化
東京都における適用可能性(案)	<input checked="" type="checkbox"/> 水道局	直維持管理業務へ適用可能性あり。	
【参考】導入コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 860万円 (全長1000km、モデル開発含む)	導入にあたっての課題・検討事項	<input checked="" type="checkbox"/> モデル構築に必要な過去データ (破損・漏水履歴、環境情報等) の充足性の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 当該情報の収集・整備・デジタル化

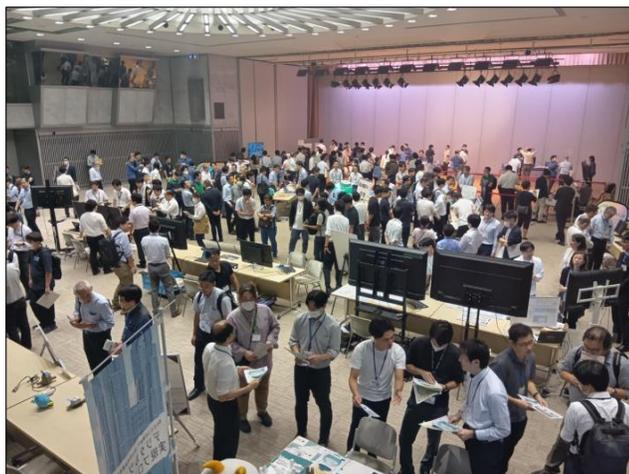
(詳細版イメージ)

今後の展開

調査結果を庁内展開し、各局におけるDX・AI導入検討のきっかけづくりと取組推進を後押し

職員のデジタルリテラシー向上

○デジタル技術体験会の開催



各局取組を一同に会した体験会を初開催

各局取組の深度化・横展開

○ドローン・AI設計照査に関する意見交換会



職員の関心が高いドローン・AI設計照査に関する庁内事例の共有

先進的なDX・AIの活用事例調査

○先進的なDX・AI技術のリスト化、詳細版作成

調査個票 No. 48 (事例詳細)			
事業者分類	国内上場企業	事業者	丸証株式会社
		導入開始時期	2023年
足利市において事業実施の事例。足利市の水道管路延長は約1,037km。特に高層経済成長期に敷設された			
コア技術	AI	技術分野	水道
		フェーズ	試行
技術名	AIとビッグデータを活用した上下水道管路劣化診断		
概要	AIとビッグデータを活用し、上下水道管路の劣化を自動診断。 > 【漏水発生エリアの優先順位付け】漏水検出範囲の限定による修繕コスト化、漏水発見確率を向上という形で維持管理の効率化を実現 > 【更新優先業務の選定】より破壊可能性が高い管路の選定・更新することで、効果的な予防保全に繋げ、事故件数の削減、すなわち管路維持管理コスト削減を実現 > 【長期的な更新計画のシミュレーション】管路の更新率や事業費に応じた想定事故件数の推移をシナリオ別に表示することで、適切なアセットマネジメントの検討に貢献		
効果類型	業務高度化 業務効率化	想定効果	更新対象予測的中率向上（従来モデル25%→75%） 調査業務の約6倍の効率化
東京都における適用可能性(案)	水道局における上下水道維持管理業務へ適用可能性あり。		
【参考】導入コスト	860万円 (管路1000km、モデル構築費含む)	導入にあたっての課題・検討事項	モデル構築に必要な過去データ（破損・漏水履歴、環境情報等）の充足性の確認 当該情報の収集・整備・デジタル化

(詳細版イメージ)

各局におけるDX・AI導入検討のきっかけづくりと取組推進を後押し

今後の展開

- 職員のデジタルリテラシーを向上させる機会を創出
- DX・AI利活用の更なる促進